



診療技術部だより

令和7年9月

Vol.40 医療技術科（視能訓練士）



今回の診療技術部だよりの担当は医療技術科（視能訓練士）です。
テーマは「運転免許の合格基準」です。

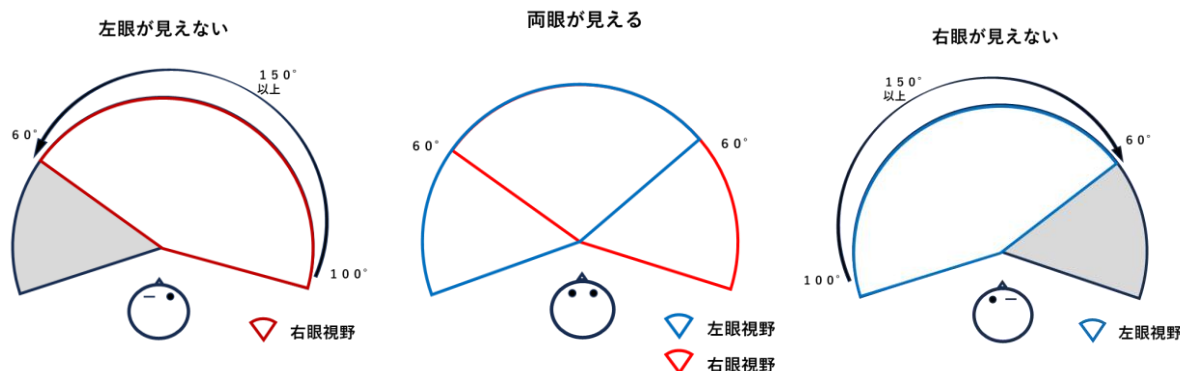
日常生活では、原付や自動車、大型トラックなど、さまざまな車両が移動手段として日々使われています。これらの運転には運転免許が必要で、その取得には「適正検査」があります。視力は安全運転に欠かせない重要な項目です。視力等に関する検査内容を説明します。

適性試験の科目と合格基準

免許の種類	両眼視力	片眼視力	視野	深視力	色彩識別能力
大型 けん引 大型二種 普通二種 など	0.8以上	0.5以上	—	三棒法の奥行知覚検査機により 2.5mの距離で3回検査した 平均誤差が2cm以下	赤色、青色及び 黄色の識別ができる
普通 大型特殊 大型自動二輪 普通自動二輪 など	0.7以上	0.3以上	一眼視力が0.3に満たない場合、 他眼視野が左右150度以上かつ 視力0.7以上	—	赤色、青色及び 黄色の識別ができる
原付 小型特殊	0.5以上		一眼が見えない場合、 他眼視野が左右150度以上かつ 視力0.5以上	—	赤色、青色及び 黄色の識別ができる

道路交通法第97条（運転免許試験の方法）、道路交通法施行規則第23条（適性試験）

視野検査



片眼の視力が基準に満たない場合であっても、もう一方の眼が基準を満たしており、かつその眼の視野が150° という基準に達している場合は、運転免許の取得・更新が可能です。

視力検査

0.1					
0.2					
0.3					
0.4					
0.5					
0.6					
0.7					
0.8					
0.9					
1.0					
1.5					
2.0					

普通免許等：片眼

原付等：両眼
大型等：片眼

普通免許等：両眼

大型免許等：両眼

視野が基準を満たしているかどうかの判断は、**警察署や運転免許センターで実施される視野検査の結果のみが有効です**。医療機関で発行された診断書に視野が基準以上と記載されていても、それだけでは免許の取得・更新手続きは進められません。